

愛が足りてる

『靴ずれ戦線』 速水螺旋人

MANGA
REVIEWS

ゴトキヒ

なんで「ソ連邦です。問題ありません。」でクリミア半島をネタに取り上げないかと思ったら、ソ連邦時代ではさほど重要ではないのである。たしかにクリミア半島は第二次世界大戦・大祖国戦争でナチスドイツに占領されていたが、ソ連領であったウクライナ全域を奪還した方が大きいのである。

それにクリミア情勢、ひいてはウクライナ情勢がどうなるかわからないので、うかつなことを書けないのである。

そんな「ソ連邦です。問題ありません。」のイラスト担当の速水螺旋人さんのマンガ『靴ずれ戦線』はマンガ読みで嫌いな人はいないと思う。

それは既存マンガの様々な要素を持ちながら、速水さんの個性も出ているからだ。

ミリタリーマンガといえはこの人、小林源文の戦争マンガの気分、というよりユーモアがある。ユーモアが無いと殺伐としてしまうから、中和作用が必要なのである。

同じ第二次世界大戦が舞台なら、ユーゴの戦争を描いた坂口尚の『石の花』。

魔女が戦争に駆り出されるのは『純潔のマリア』や『ディアボロのスープ』が同時期にある。

杉浦日向子さんの『百物語』（鏡斎まいるシリーズでもいい）のロシア版といえる妖怪たち。

『日本人の知らない日本語』で世界各国のクリスマスで話題にされた、ロシアのサンタクロースに付き添っている女の子は、スネグーラチカ（雪娘）のことだったのか。

そして伊藤剛さんの指摘している通り宮崎駿の『雑想ノート』のような注釈、「馬車馬大作戦」から引き継いだミリタリーホラ話がある。（私は今、スリップストリームでマンガ評を書いている）

近代戦と魔女の妖術は、マンガストーリー上では、別に反発しあうものではない。それは第二次世界大戦の経験者がいなくなって（主要な読者ではない）、伝聞でしか聞かれなくなったからかもしれない。伝聞であれば、魔女の妖しい話も二千万人が死んだ大量殺戮の戦場での出来事も、等価になってしまうのだ。

こうした戦争モノのマンガと妖怪あやかしマジナイ類の他にもう一つ、メカマンガとしての面白さがある。

マンガの幕間にあるツレヅレメカコラム「螺子の囁き」を読むと、なんとなく『グレンラガン』のヨーコのライフルをデザインしたのがわかる。私も立場を得たら、銃器デザインのオファーをしたい。是非したい。

オファーどころか、コングリーヴロケットやホイールロックピストルのアイデアを拝借しているのだが、それはまた別の話。

なんだか相対的に見て影待蛭太くんに何が足りないか、わかる。

速水さんにあって、影待くんに足りないのは、実は具体的に言いたくないが、言わないと話が進まないの、気が進まないの、もったいぶらずに言えば、マニアック度が足りない。

マニアック度が足りないというと、メカやミリタリーに対して愛も足りない。

愛情を持っているに違いないのだが、その愛情の深さが伝わらないのだ。

深さが伝わらないという表現ではなく、すぐ足がつく底の浅さを『GROUNDLESS』に感じるのだが、これ以上書くと悪口に聞こえるので控えよう。本人には比べられる相手が悪かったと思ってほしい。

『GTroman』の袖に書いてあるとり・みきさんの推薦文に「マニアックは一般性に通じる」とある。マニアックであるからこそ、一般の人にまで愛情が伝わってくるのだ。そもそもマニアとは日本語でヘンシッキョウのことで、フランス人形を集めている人が「今日はジュリアちゃんは人見知りね」と話しかけるような、一般の方（カタギ）には理解されない行動をとる人々のことだ。速水さんのマンガやイラストコラムには、そのマニアの持つ異様、マニアックさがある。愛情表現に近い。その愛情も深い。

事実、「螺子の囁き」では実際には飛ばなかったエアロドローンはイラストの中で大空を手に入れている。菜穂子さんが死んで風を起こさなくても、絵で描けばエアロドローンは空を飛ぶのだ。

絵に描いたエアロドローンである。

そこに愛を感じて、何がいけないだろうか。フランス人形に声をかけてしまうマニアと同じ愛情を感じる。

そして、もう一人のマンガ家とも比べたい。それは木崎ひろすけさんだ。

木崎さんもメカを描くが、どこか愛情の無さがなんとなく伝わってくるというか、持っているに違いないのに、伝わってこないのである。（前と同じことを書いている）

こだわるマニアックさが、彼には欠如していたといえる。絵の巧さが勝ちすぎてどこか画面に空疎を感じるのも、ここらへんに起因していたのだろう。

木崎さんと相対評価すれば速水さんはメカにこだわられたのだ。マニアックになれたのだ。弾丸にライフリングする、つまりメカに螺旋の愛を刻み込むことができる。筆名もそこからきているのだろう。

メカ愛で刻まれた弾丸がジャイロスピして、私たちのハートを撃ち抜くことぐらい、簡単にやってのけてしまうのだ。

マンガレビュー 愛が足りてる『靴ずれ戦線』速水螺旋人

<http://p.booklog.jp/book/88557>

著者：ゴトチヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotochihi1980/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/88557>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/88557>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ

奥付リンク

[速水螺旋人『靴ずれ戦線』1 アマゾン](#)

[速水螺旋人『靴ずれ戦線』2 アマゾン](#)

[速水螺旋人『速水螺旋人の馬車馬大作戦』 アマゾン（中古）](#)

[影待蛍太『GROUNDLESS』 ブックログのパブー](#)

『弾丸の舞臺』 東水黠人

愛は深い

MANGA REVIEW

イチ

今回はソ連軍のミリタリーカラー
オリーブグリーンに変色させている